

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書9章1～6節＞

1 弟子たちへの宣教命令 — 最初と最後に記されたことが大事 —

これまでイエス様の言動を見聞きして学んできた弟子たちがいよいよ主と同じことをなすために遣わされます。3～5節に記された具体的な内容に目が行きがちですが、1～2節と6節に記された内容が重要です。

2 弟子たちが行うのではなく、行う主体は神様。その神様に委ねる。

まず、1節で大事な点は、弟子たちに与えられる「力」「権能」とは神様の力、神様の権能であり、ここで考えなければならないことは、弟子たちを用いて神様が行われるのだということです。このことを思うと、「この話は弟子たちに起こった不思議な話」ではなく、聖書から教えられる「私たちにも起こる話」であることに気づきます。すなわち、神様は聖霊によって今も私たちに働いて下さり、神様がなすべきと思われたことはなされるのです。このことを信じて生きるときに不必要な不安から解放され、主にある平安が私たちに訪れるのです。

3 神が真の支配者であることを信じ、その支配の中を生きること。

次に、1、2、6節を見比べますと面白いことに気づきます。病気のいやしが全節に、あらゆる悪霊に打ち勝つことが1節に、神の国（福音）の宣教が2、6節に出て来ます。ですから、悪霊に打ち勝つことは神の国（福音）の宣教によって克服されるものとして考えられていると言えるでしょう。「神の国（バシレイア・トゥー・セウ）」の直訳は「神の支配」です。私たちが神様をしっかりと見つめて、神様の支配の中を生きるなら、悪霊が入り込む余地はなくなって退散するのです（ルカ4:13）。

4 下着は何枚いるかはどうでもいい。神様を信じているなら。

3～5節に記されていることは、神様抜きでこの世的に考えると、色々な意見が交わって面白いかもしれません。しかし、すべて、「神様を本当に信頼して取り組むなら心配することはない」、とイエス様が思いながら語られている言葉です。ここには「二人一組」は出て来ません（10:1）。その前に、神様に依り頼むことがまず第一のことだからです。